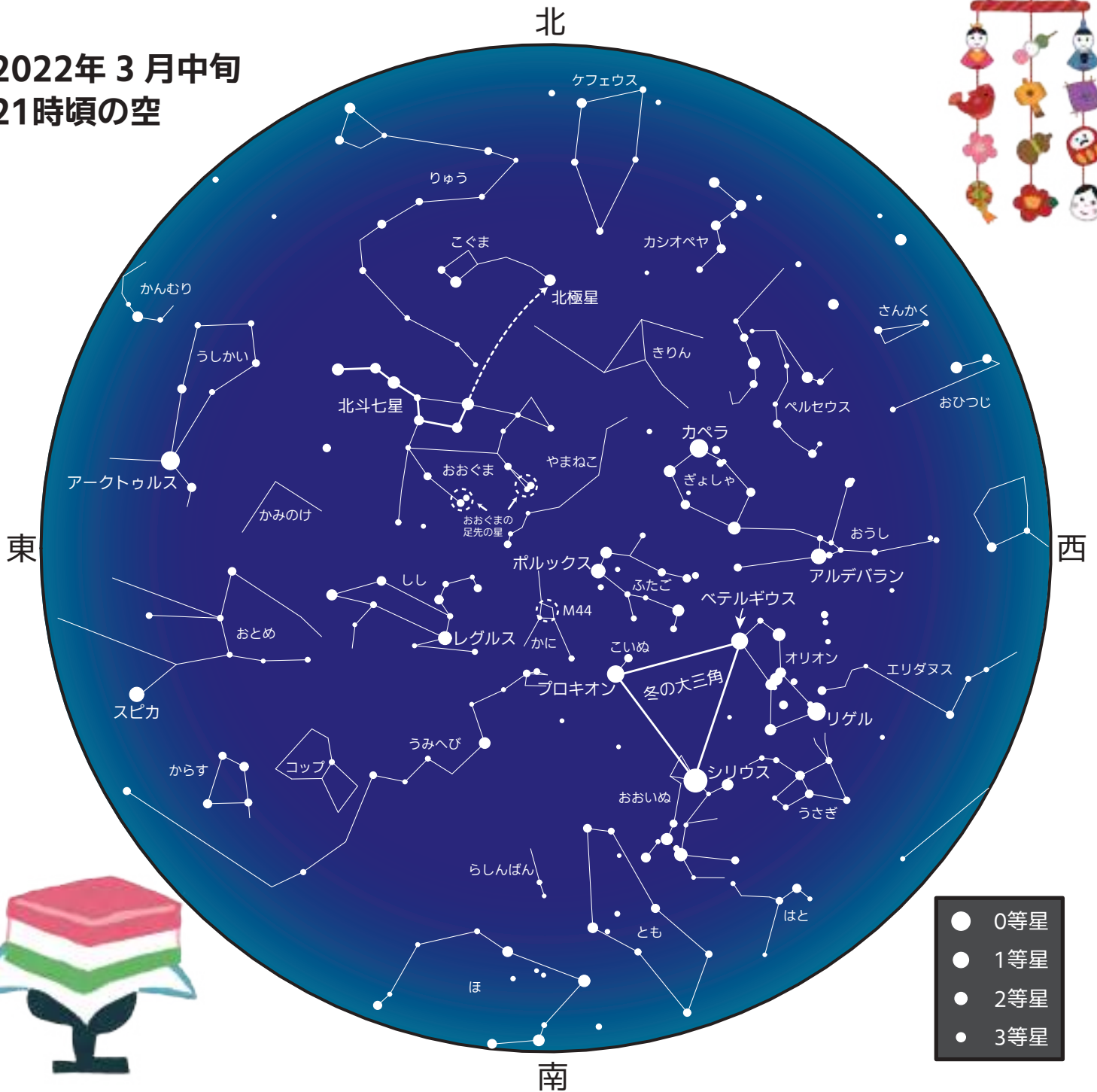


阿南市科学センター

3月の星空案内

2022年3月中旬
21時頃の空



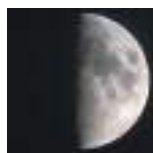
3月に入り、寒さがまだ残る時期ですが、夜空を見上げると少しずつ春の足音が聞こえてきています。夜9時頃、空西半分は冬の星座、一方東半分は春の星座が見えています。南西の空やや高いところには、ひときわ明るい星シリウス(おおいぬ座)が見えます。さらに近くにある明るい星ベテルギウス(オリオン座)、プロキオン(こいぬ座)の3つを結んでできるのが冬の大三角です。変わって、北東の空には、春の星としてよく知られている、ひしゃくの形に並んだ北斗七星が見えています。北斗七星はおおぐま座の一部で、腰からしっぽにかけての部分にあたります。また空の暗いところでは、おおぐまの足先に2つずつ星(約3.0~3.6等)が並んでいる様子も見られます。ところで、北斗七星が見つかる则便利な星も探すことができます。北斗七星をひしゃくの形に見立て、持ち手とは反対側の先にある2つの星を5倍伸ばすと、北極星が見つかります。北極星は1日中ほぼ真北の位置で輝くため、方位を知ることができます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時~, 19時~, 20時~】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 3月の月の満ち欠けと惑星について



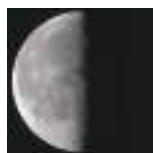
新月
3日



上弦
10日



満月
18日



下弦
25日

3月の天体観望会で月が見える日時は？



3/5(土) 18時の回で観察可



3/12(土) 全ての回で観察可

※18時の回は空が明るいため、19時か20時の回をおすすめします

水星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

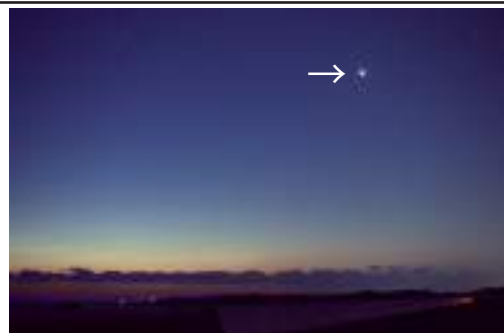
金星：日の出前、東の低空に見える。【約 -4.4 等】

火星：日の出前、東の低空に見える。【約 1.2 等】

木星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

土星：日の出前、東のごく低空に見える。【約 0.8 等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。



20日に金星が西方最大離角をむかえ、太陽からの見かけの位置が最も離れるため見ごろとなる(撮影：A.Suzuki)

■ 3月のおすすめ天体

★プレセペ星団 M44 (かに座)

ふたご座のポルックスと、しし座のレグルスとを結んだ線の真ん中あたりにはプレセペという名で親しまれている散開星団があります。散開星団は、星団の中でも星がパラパラとまばらに集まっている天体です。プレセペ星団の場合は数十もの星たちが群れをなしているように見えます。

プレセペ星団は紀元前より存在が知られており、当初は星雲のような天体だと考えられていました。ところがガリレオ・ガリレイにより、この天体は星雲ではなく、40以上もの星が集まっていることが明らかになりました。空の暗いところでは肉眼でもプレセペを見ることができ、その様子はぼやとした雲のような姿に見えます。ですが5倍程度の望遠鏡や双眼鏡を向けてみると、いくつもの星が集まっている様子が分かります。低倍率の望遠鏡や双眼鏡でも楽しむことができる天体の一つです。

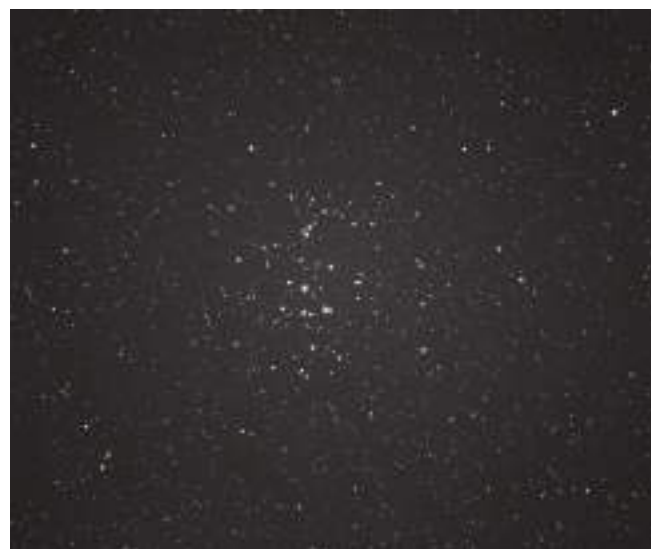


写真1. プレセペ星団 (撮影：A.Suzuki)



写真2. M64 (撮影：A.Suzuki)

★黒目銀河 M64 (かみのけ座)

春の星座であるかみのけ座やおとめ座のあたりには、数多くの銀河があります。黒目銀河はかみのけ座の方向にあり、地球から1340万光年先にある天体です。

銀河の楽しみ方というと「見た目」があります。銀河には楕円形のもの、不規則な形をしたものなど様々な形があり、その形で分類がなされています。中でも黒目銀河は渦巻銀河に分類されています。写真では淡い光が渦をなす様子が分かります。さらに、中心部分より少し外側には黒っぽく見える筋のような部分があります。この辺りは銀河の中にある塵が密集しており、銀河の輝きをつくる星の光が遮られている領域です。その特徴的な姿が“黒目”銀河の名の由来ともなっています。